

# 「強い馬づくり」は「良い土づくり、草づくり」から！ ～コントラクタ事業支援による軽種馬草地簡易更新の推進～

- ◆活動年次：平成22年度～平成24年度
- ◆対象：優駿サポート利用農家 14戸

## 1 課題の背景

軽種馬経営が極めて厳しい状況の中、日高東部地区では、産地対策事業の受け皿として平成17年度に「(有)優駿 サポート」がJA出資により設立された。優駿サポートは、関係機関と連携しながら強い馬づくりに向けて「生産組織化事業」「技術指導事業」「生産基盤整備事業」の3つの柱で取り組んできた(図1)。平成20年には、生産基盤整備事業の核として、草地の簡易更新を行う追播機を導入し、軽種馬の放牧地・採草地の植生を改善する共同利用事業を開始した。以後、この事業が優駿サポートの活動の大部分を占めている。普及センターは優駿サポートの組織作りと事業協力を継続的に支援してきた。

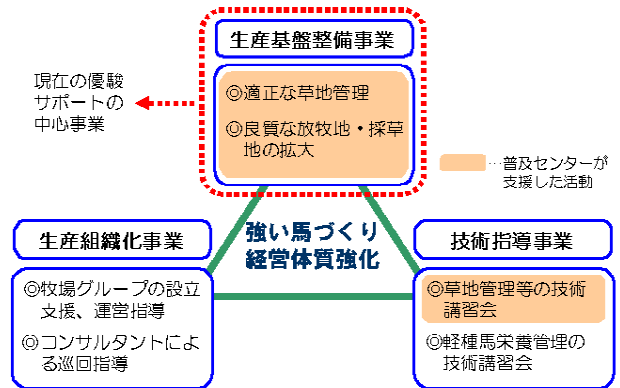


図1 (有)優駿サポートの事業目的

## 2 活動の経過

普及センターは、作業機の選定にあたり、現地試験を通してアドバイスを行った。作業機は、反転耕起不可能な土地でも更新ができ、完全更新より作業性や作業コストで優位性のある追播機(オーバースーダー)を導入することとした。また、コントラクタ事業の実施体制(図2)を提案し、事業の推進を図った。生産基盤整備事業は、優駿サポートが作業機を所有し、選定した地域のオペレーターにより、希望者の草地で牧草は種作業等を行うしくみとしている。

簡易更新にあたっては、JA担当者と普及センターで希望する牧場を巡回し、ほ場の植生調査や土壌分析を行い、作業指示書(更新スケジュールや施肥量、は種量等を記載)を作成して更新や管理方法について提案してきた。

また、更新後も、当年及び翌年にほ場調査と草地管理指導を通して良好な草地の維持を目指した。

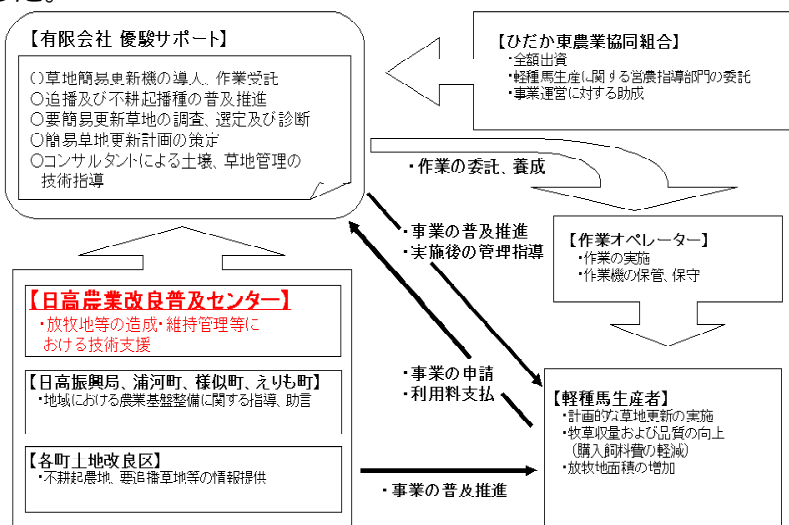


図2 生産基盤整備事業 実施体制図



写真1 草地での管理指導



写真2 追播作業(オーバースーダー)

### 3 活動の成果

#### (1) 簡易更新実施ほ場が増加！

土壌分析に基づく施肥設計や作業指示書により円滑な簡易更新が行われた。H23年は天候不順により更新面積が伸びなかったが、H24年は追播機による播種が過去最高の44haとなり、推定では地区更新面積の約50%であった。5年間では113haの稼働面積となっている。

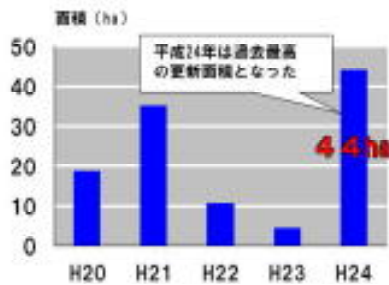


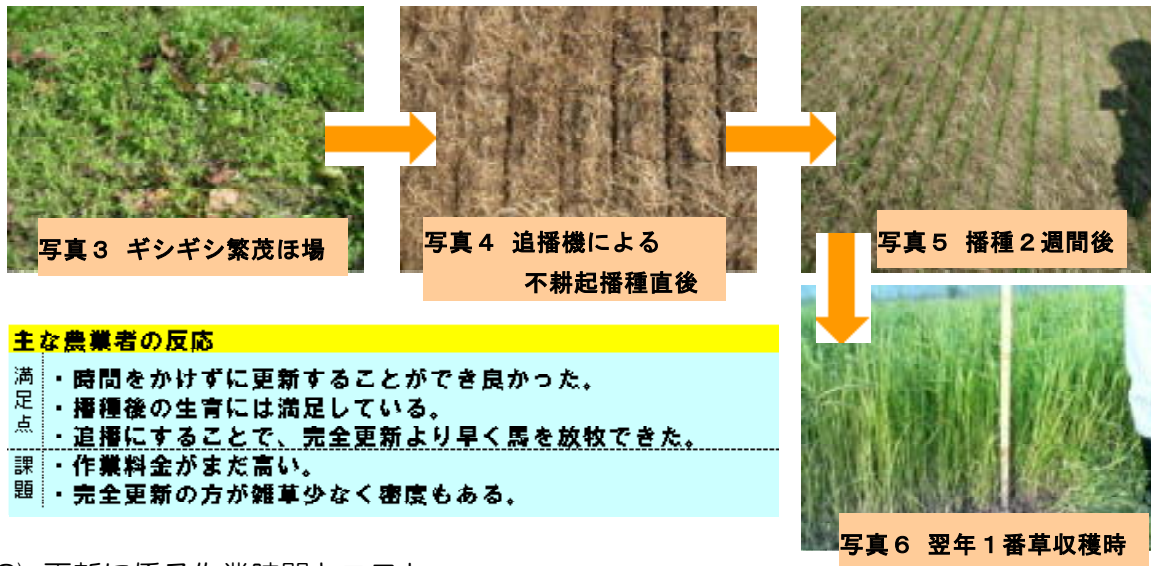
図3 追播機稼働面積



図4 推定草地更新面積 (JAひだか東管内)

#### (2) 植生が改善！

雑草や裸地が減少し、植生が改善され、生産者には好評であった。



#### 主な農業者の反応

- | 満足点   | 課題   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>時間をかけずに更新することができ良かった。</li> <li>播種後の生育には満足している。</li> <li>追播にすることで、完全更新より早く馬を放牧できた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業料金がまだ高い。</li> <li>完全更新の方が雑草少なく密度もある。</li> </ul> |

#### (3) 更新に係る作業時間とコスト

多量の礫や土壌の強粘着性のために反転耕起が不可能な土地でも更新が進み、また従来の完全更新よりも作業時間が大幅に短縮され、作業委託時の費用はおおよそ9割削減できた。収量性も調査ほ場では、地区平均(作況調査)を大きく上回っている。

表1 ha当たり作業時間比較

(単位：時間 生産技術体系参考)

作業名	完全更新	不耕起更新
耕起・砕土	1.6	
鹽地	1.7	
石灰散布・混和	3.4	1.7
鎮圧	1.0	
除草剤散布	0.3	0.3
施肥・播種	2.0	1.0
計	10.0	3.0

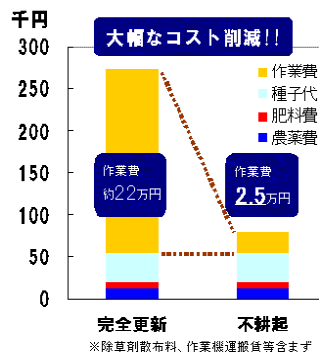


図5 完全更新との費用比較 (ha当)

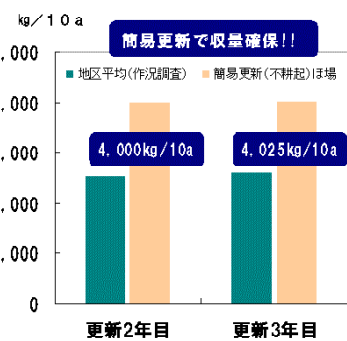


図6 Aほ場の1番草収量推移

#### (4) コントラ事業に関わる技術力の向上！

事業を通じて、オペレーターの技能向上と、JA営農指導員の技術力が向上が図られた。

### 4 今後の課題

今後は、一ほ場の対応だけでなく、牧場全体の草地マネジメントや、生産者の草地更新に対するより一層の意識向上が課題である。